

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 19 年 2 月 8 日 (2007.2.8)

【公表番号】特表 2006-511651 (P2006-511651A)

【公表日】平成 18 年 4 月 6 日 (2006.4.6)

【年通号数】公開・登録公報 2006-014

【出願番号】特願 2004-563832 (P2004-563832)

【国際特許分類】

C 0 8 J 3/22 (2006.01)

B 3 2 B 27/00 (2006.01)

C 0 8 L 59/00 (2006.01)

C 0 9 J 5/02 (2006.01)

C 0 9 J 201/00 (2006.01)

C 0 8 L 101/00 (2006.01)

C 0 8 L 75/04 (2006.01)

【F I】

C 0 8 J 3/22 C E Z

B 3 2 B 27/00 1 0 3

C 0 8 L 59/00

C 0 9 J 5/02

C 0 9 J 201/00

C 0 8 L 59/00

C 0 8 L 101:00

C 0 8 L 75:04

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 12 月 18 日 (2006.12.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(i) (a) ポリアセタールポリマーマトリックスを形成するステップと、

(i i) (b) 濃縮物を前記ポリアセタールマトリックスに加えるステップであって、前記濃縮物が、0 重量% ~ 40 重量% の熱可塑性ポリウレタンと 20 重量% ~ 80 重量% の少なくとも 1 種の非晶質または半結晶質のポリマーとをポリアセタール中に含む、ステップと、

(i i i) (c) 基材を成形するステップであって、(a) + (b) の全重量を基準にして成分 (a) が 85 ~ 98 重量% で存在し、成分 (b) が 2 ~ 15 重量% で存在するステップと

を含む基材の製造方法。

【請求項 2】

(i) 請求項 1 に記載の基材を形成するステップと、

(i i) 少なくとも 1 つの追加層を前記基材に接着するステップとを含むことを特徴とする物品の製造方法。

【請求項 3】

請求項 2 に記載の方法により製造されたことを特徴とする物品。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0108

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0108】

(接着性を試験した塗料)

タイプB - ラスト - オレウム・ハード・ハット (Rust - oleum Hard Hat)、スプレー、仕上ACABADOセイフティ・ブルーV2124 (finish ACABADO safety blue V2124)

タイプK - タミヤ・ヨーロッパ (Tamiya Europe GMBH) のTS - 5 オリーブ・ドラブ (Olive Drab)

最後に、本明細書に開示される発明について列記する。

1. (i) (a) ポリアセタールポリマーマトリックスを形成するステップと、

(i i) (b) 濃縮物を前記ポリアセタールマトリックスに加えるステップであって、前記濃縮物が、0重量% ~ 40重量%の熱可塑性ポリウレタンと20重量% ~ 80重量%の少なくとも1種の非晶質または半結晶質のポリマーとをポリアセタール中に含む、ステップと、

(i i i) (c) 基材を成形するステップであって、(a) + (b) の全重量を基準にして成分(a) が85 ~ 98重量%で存在し、成分(b) が2 ~ 15重量%で存在するステップと

を含む基材の製造方法。

2. 前記ポリアセタールポリマーが、約10,000 ~ 約100,000の範囲の数平均分子量を有する分枝状または線状のポリマーであることを特徴とする前記1.に記載の方法。

3. 前記ポリアセタールポリマーがホモポリマー、コポリマー、またはそれらの混合物であることを特徴とする前記2.に記載の方法。

4. 前記ホモポリマーが、エステルまたはエーテルから選択される基によってエンドキャップされている末端水酸基を有することを特徴とする前記3.に記載の方法。

5. 前記エステル基がアセテート基であることを特徴とする前記4.に記載の方法。

6. 前記エーテル基がメトキシ基であることを特徴とする前記4.に記載の方法。

7. 前記ポリアセタールマトリックスが、少なくとも1種の安定剤をさらに含むことを特徴とする前記1.に記載の方法。

8. 前記濃縮物が少なくとも1種のペレットの形態であることを特徴とする前記1.に記載の方法。

9. 前記少なくとも1つの非晶質または半結晶質のポリマーが、スチレンアクリロニトリルコポリマー、アクリロニトリル - ブタジエン - スチレン樹脂で強化されたスチレンアクリロニトリルコポリマー、アクリロニトリル - エチレン - プロピレン - スチレン樹脂で強化されたスチレンアクリロニトリルコポリマー、ポリカーボネート、ポリアミド、ポリエステル、ポリエステル - ポリエーテルコポリマー、ポリアリーレート (polyarylates)、ポリフェニレンオキシド、ポリフェニレンエーテル、耐衝撃性スチレン樹脂、アクリルポリマー、イミド化アクリル樹脂 (imidized acrylic resins)、スチレン無水マレイン酸コポリマー、ポリスルホン、スチレンアクリロニトリル無水マレイン酸樹脂、スチレンアクリルコポリマー、およびそれらの誘導体からなる群より選択されることを特徴とする前記1.に記載の方法。

10. 前記少なくとも1つの非晶質または半結晶質のポリマーが、スチレンアクリロニトリルコポリマー、アクリロニトリル - ブタジエン - スチレン樹脂、アクリロニトリル - エチレン - プロピレン - スチレン樹脂、およびポリカーボネート、ポリエステル、ポリエステル - ポリエーテルコポリマーからなる群より選択されることを特徴とする前記9.に

記載の方法。

11. 前記基材が、押出成形および射出成形からなる群より選択される方法を使用して成形され得ることを特徴とする前記1.に記載の方法。

12. (i)請求項1に記載の基材を形成するステップと、

(ii)少なくとも1つの追加層を前記基材に接着するステップとを含むことを特徴とする物品の製造方法。

13. 前記少なくとも1つの追加層が、熱可塑性オレフィン、熱可塑性エラストマー、ポリエチレン、ポリプロピレン、熱可塑性ポリウレタン、極性オレフィン、溶剤 (solvent)、水性ラテックス、エポキシ、ウレタン、粉末コーティングアクリル (powder coating acrylic)、溶剤系接着剤 (solvent-based glues)、ラテックス、エポキシ、塗料、印刷インク、および強力接着剤 (super glue)であることを特徴とする前記12.に記載の方法。

14. 前記少なくとも1つの追加層が不連続であることを特徴とする前記12.に記載の方法。

15. 前記少なくとも1つの追加層が共連続 (co-continuous)であることを特徴とする前記12.に記載の方法。

16. 前記12.に記載の方法により製造されたことを特徴とする物品。